

直方病院レター

直方病院レターの発行にあたって

社会保険直方病院
院長 坂本 茂

当院のそのままの姿を知っていただく為に、直方病院レターを発行しています。毎号、医師に日ごろの経験、その他を伝えてもらえるようにしておりますので、宜しくお願いします。

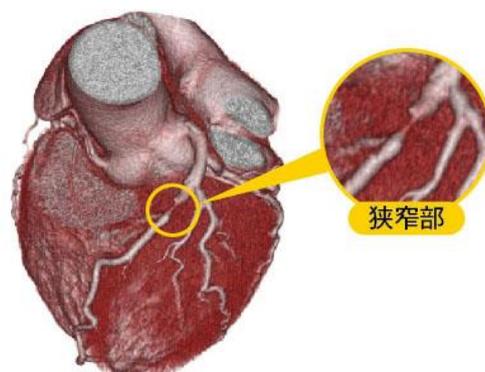
「冠動脈 CT」

内科 五十住 和彦

近年の画像診断技術の進歩により、今までは心臓カテーテル検査でしか評価できなかった冠動脈がマルチスライス CT で評価できるようになりました。当院でも 64 列マルチスライス CT での冠動脈 CT 検査を平成 25 年より開始し、昨年 1 年間で約 50 例施行しております。

冠動脈 CT では点滴で造影剤を注射することで冠動脈の走行や狭窄を評価することができ、心臓カテーテル検査と比べより低侵襲で体の負担の少ない検査です。入院の必要もなく外来での検査が可能です。特に陰性的中率 (NPV: negative predictive value) は 98% 前後と極めて高く、冠動脈 CT で有意狭窄を認めなければ冠動脈狭窄はほぼ

否定することができます。動脈硬化の低リスクおよび中等度リスクの患者様で胸痛のある場合のスクリーニング検査に非常に適しています。また、運動負荷心電図が施行困難な場合にも有用です。



一方、不整脈のある患者様、息止めのできない患者様は検査が不可能なことが多く、また冠動脈の石灰化が強い場合も評価が困難な場合があります。そのような冠動脈 CT に適してない患者様や冠動脈 CT で有意狭窄が疑われる場合、動脈硬化のリスクが高い場合は今までどおり心臓カテーテル検査が必要になります。患者様の背景や病状に合わせて適切な検査を選択しながら診断・治療をおこなっています。

また、当院では平成 26 年 5 月より 24 時間体制で急性心筋梗塞に対する緊急心臓カテーテル検査・治療を開始いたしました。また、平日の日中は開業医の先生方からのご紹介、救急隊からの搬送依頼を直接循環器内科医師が対応することのできる循環器専用のホットラインも開設しております。今まで以上に迅速な対応を心がけていきたいと思っておりますので、ぜひご利用いただければと思います。詳細につきましては病院までお問い合わせください。

「尿路結石の痛みと治療について」

泌尿器科 濱崎 隆志

尿管結石の痛みは男性でも七転八倒の痛みで、起き上がれないほど痛く、痛みの発作は突然襲うことが多いようです。突然の激痛のために救急車で病院に担ぎ込まれることとなります。しかし、病院に着いた頃には痛みが軽くなっていることがあります。

尿路結石の痛みは、結石が腎盂から尿管へ移動して、尿の流れが阻止された状態で生じます。痛みの原因は、腎盂内圧の急激な上昇によるものと考えられ、この腎盂内圧の上昇には尿管の蠕動運動が関与していると言われています。

尿管の蠕動運動中の圧力は 20～50cm 水柱圧、時には 80cm 水柱圧にも上昇します。この高い圧力が、通常 0～5cm 水柱圧しか圧力ない腎盂や腎杯に加われば、激痛を感じるようになります。しかし、ある程度腎盂内圧が上昇すると、尿の産生が止まり、腎盂内圧の変化が無くなり、腎盂、尿管が拡張した状態で平衡状態になります。このような状態では鈍痛は自覚しても激痛を生じることは少なくなります。このことが問題となり、患者さんによっては、痛みがなくなり、そのまま放置してしまう人がいます。何カ月かあるいは何年か経過するうちに、拡張した腎臓(水腎)は、腎実質が薄くなり不可逆性の腎機能障害へ進んでいきます。尿路結石(特に尿管結石)の患者さんに対しては定期的な検査のご指導をお願いいたします。

現在の尿路結石の治療はメスによる治療をほとんど必要としません。尿路結石の治療は内視鏡を用いた破碎術、体外衝撃波を用いた破碎術(ESWL)があります。内視鏡を用いた尿路結石の破碎術には、PNL(経皮的腎結石破碎術)とTUL(経尿道的尿管結石破碎術)の2種類があります。PNLは皮膚と腎臓の間で30F程の腎瘻を作成して、内視鏡(腎盂鏡)を用いて破碎する方法です。PNLは後述のESWLのほうが患者さんに対する身体的な負担が少なく、技術的にも用意なため、現在ではESWL単独では破碎、抽石できない特殊な結石に対して施行されます。TULは経尿道的に逆行性に内視鏡(尿管鏡)を尿管まで挿入して、破碎する方法です。当院ではスイス製のリトラクストという振動させた空気をエネルギーに変換する装置を使用して破碎術を施行しています。

TUL は主として骨盤内の尿管結石に対して用いられることが多いです。

ESWL(体外衝撃波腎尿管結石破碎術)は、ドイツのドルニエ社が最初に研究開発を進めた技術です。水中で電極放電すると電極周囲に衝撃波が生じることがわかり、衝撃波を体外から人体に照射すれば、人体中の結石が破壊しうるのではないかと考え、実用化された技術です。衝撃波が骨にあたっても、骨が破壊されることはありませんし、腸にあたっても障害はおきません。ESWL はほとんどの腎結石と骨盤より上の尿管結石に対して非常に良好な治療成績が得られています。当院にはまだ ESWL は導入されていないため、ESWL が適応な患者さんは他施設にご紹介させていただきます。



〒822-0024
直方市須崎町 1 番 1 号
TEL 0949-22-1215
FAX 0949-24-1302